コロナと大学

名古屋の大学で 35 年勤めて、退職してから 6 年も経つのに、やはり大学と大学生のことが気になる。卒業生を送り出し、新入生を迎え入れ、新たな年度が始まり、ほっと一息つく頃だったと思う。それが今年は一変してしまい、大学は混乱と戸惑いのようだ。コロナ危機は大学と大学生、教育研究を揺るがしている。

フェイスブック仲間の投稿によると、「オンライン講義」なるものが開始され、教員たちは慣れない講義の準備に追われているようだ。ゼミ生と「オンライン飲み会」をやり盛り上がったという投稿を読むと、なんだか嬉しくなってくる。でも、こうした大学生活に対応できない学生もいるのではないだろうか。とくに大学に入学しても、図書館なども利用できず、友だちも作れず、先輩との交流もできない新入生のことが気になる。入学式前後から新入生歓迎行事が繰り広げられ、サークルの勧誘など、大学は活気に満ちているはずの時期である。それが大学に立ち入ることさえできないのだ。今年「入学」した学生は、とりわけ長期にわたる影響が懸念される。

緊急を要する事態も進行している。写真は朝日新聞 4 月 24 日朝刊 2 面に大きく掲載された「学生困窮」である。リードから―新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、退学に追い込まれかねない学生が各地にいる。親の収入減やアルバイト先の休業などで、学費や生活費が払えない状況になったためだ。国の支援制度では救いきれない仲間のために学生たちが自ら動き出し、独自の支援策を始めた大学や自治体もある。

学生困窮

バイト激減 実家も頼れず

「支援ないと退学か休学」

時時刻刻

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、退学に追い込まれかねない学生が各地にいる。親の収入減やアルバイト先の休業などで、学費や生活費が払えない状況になったため、国の支援制度では救いきれない仲間のために学生たちが自ら動き出し、独自の支援策を始めた大学や自治体もある。

居酒屋のバイト料で学費や生活費をまかなう金沢大 3 年の男子学生は 3 月以降、勤務時間が大幅に短くなった。月 10 万円ほどあった収入は、今月は半分以下になりそうだ。食費は 1 日 200 円以内におさえ、アパートの部屋の電気を消して暮らす。自営業の実家も客が激減して頼れない。「生きていけるか不安で眠れない」などと語る。学生の間では、困窮する仲間を支援する動きも始まった。学生団体「FREE」は 22 日、新型コロナの影響に関する学生アンケートの結果を発表した。回答した全国 120 校の 514 人のうち、退学を「少し考える」「大いに考える」との回答は計 40 人で、13 人に 1 人に上った。「このままでは新型コロナに学生生活と未来を奪われる世代が生まれ、社会全体にも大きな損失となる。国の速やかな支援が必要だ」と訴えた。

（2020年5月1日）